

令和6年度 江戸崎総合高等学校自己評価表

目指す学校像	1 規律を重んじながら生徒一人一人の個性を伸ばす、創意と活力に満ちた学校 2 地域の様々な教育的ニーズに応える、生徒、保護者及び地域住民に広く信頼される学校 3 探究による学びを通して、生徒一人ひとりの興味・関心、能力・適性に応じた進路の実現ができる学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
1 学力や学習意欲に関して多様な生徒に対応するため、特別進学クラスの設置や少人数による授業展開(英語)を実施している。また、生徒主体による中学校での出前授業をはじめ、地域連携活動を通して、生徒の自己肯定感・有用感を高める指導を推進している。さらに、各種検定試験の全員受験を実施し、3年次における資格取得率が向上するなど、一定の成果をあげている。	基礎学力の向上と個に応じた学力の定着に向けた授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 授業に臨む基本的な態度を育成し、学力の定着を図る。また、主体的に学ぶ意識を育成する。 I C Tを活用した教育の推進を目指すと共に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる。 生徒に興味・関心を持たせる授業を工夫し、知識・技能の習熟を図る。また、各種検定試験の合格を目指す。 生徒の授業満足度について、生徒による授業評価「授業を通して、知識や技能(技術)が身に付いた」「授業を通して、考えたり表現したりする力が身に付いた」での肯定的意見8割以上 	B
2 進路希望は、就職から国公立大学進学まで、生徒一人ひとりの希望は多岐にわたっている。就職については、学校を通しての就職内定率が約99%になるなど、高い実績をあげている。進学については、生徒の希望に応じた組織的かつ継続的な取組により全員の進路実現を果たした。	基本的生活習慣の確立と規範意識の育成	<ul style="list-style-type: none"> 頭髮・服装・遅刻指導について、日常的・継続的な生徒指導を徹底する。 保護者に対して、様々な機会を通して規則・規律の尊重についての理解を求める。 生徒指導に対する職員間の共通理解を深め、一致協力して指導にあたり、充実させる。 授業や学校行事で5分前を意識した行動に努める。 	B
3 生徒の規範意識を高めるため、積極的な生徒指導を行っている。昇降口指導や服装指導を全職員で継続することによって、年度末には生徒の生活態度は改善した。また、きめ細かな交通安全指導を継続し、一定の成果が見られた。家庭と連携した指導と教職員全体の指導実践をさらに一致させ、指導体制をより強固にしている。	進路希望の実現と指導体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の多様な進路希望をふまえ、個に応じたきめ細やかな進路指導の充実を図る。 インターンシップを実施し、進路について自ら考え主体的に決定できる力を育てる。 「産業社会と人間」の時間の一層の充実にも努め、3年間を見通した進路シラバスに基づく指導を実践する。 模擬試験や資格取得を推進し、進路希望の実現を図る。 	B
4 生徒会役員の定例会を毎週1回行っている。また、応援団、文化祭実行委員会に多くの生徒が積極的に参加するようになった。ボランティア活動にも熱心に取り組んでいる。特別活動を通じた活動記録を、「江総ポートフォリオ」(キャリアパスポート)に記録している。	地域と連携した学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域社会と連携した、開かれた学校づくりに務める。 「各県立学校等チャレンジ・プロジェクト」を通して、地域貢献、地域連携、地域共生を目指す。 	B
	生徒の主体的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 部活動へ積極的に参加し、学校生活への興味・関心を高める。 学校行事や生徒会活動に積極的に参加できる工夫をする。 勤労体験やボランティア活動を通して心の育成を図る。 	B

<p>5 勤務時間外の在校時間が月 45 時間を超過している教員が一部存在する。</p> <p>テレワークシステム、勤怠管理支援システム、電子決裁システムなどを導入し、教職員が働きやすい勤務環境を整備し、教職員のワークライフバランスの実現を図る必要がある。</p>	<p>働き方改革の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「勤怠管理支援システム」を活用し、教職員の在校等時間と業務分類に応じた時間数の正確な把握を行う。 ・ワークフローシステムを導入し、学校における資料の電子化を推進する。 ・テレワークシステムを導入し、校務効率の向上を図る。 ・定時退勤時間の設定等をとおして、教職員の働き方改革に対する意識を高める。 	<p>B</p>
--	-----------------	--	----------

<p>三つの方針</p>	<p>具体的目標</p>	<p>評価</p>	<p>次年度（学期）への主な課題</p>
--------------	--------------	-----------	----------------------

<p>「三つの方針」 （スクールポリシー）</p>	<p>「育成を目指す資質・能力に関する方針」 （グラデュエーション・ポリシー）</p>	<p>（長期的目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自ら学び、自ら考える意志をもって、意欲的に学習活動に取り組むことができる生徒 ○江戸崎総合高校生としての誇りをもち、地域社会の発展に貢献できる生徒 ○調和のとれた豊かな人間性や社会性を備え、よりよい社会を実現しようとする生徒 	<p>B</p>	<p>「総合的な探究の時間」や「チャレンジプロジェクト事業」を通じ、地域と連携した教育活動を更に進め、生徒自らが社会の創り手としての意識を醸成する。</p>
	<p>「教育課程の編成及び実施に関する方針」 （カリキュラム・ポリシー）</p>	<p>（中期的目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人一人の個性を伸ばし、個々の教育的ニーズに応じた教育内容の充実 ○進路希望の実現に向けた、キャリア教育の充実 ○ICTの活用など多様な学びの機会を通じた、広く社会で通用する思考力・表現力の涵養 	<p>B</p>	<p>ICTを効果的に活用し生徒個々に応じた指導のために、組織的に授業改善に努め、社会に求められる生徒の資質・能力の向上を図る。</p>
	<p>「入学者の受入れに関する方針」 （アドミッション・ポリシー）</p>	<p>（短期的目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○互いを認め、高め合って協働し、切磋琢磨しながら成長しようとする生徒 ○基本的生活習慣と基礎学力を身に付け、意欲的な学習を継続しようとする生徒 ○進路希望の実現に向け、主体的・意欲的に行動しようとする生徒 	<p>B</p>	<p>入学者に対する初期指導に重点を置き、高校生としての自覚と責任のもとに、目標を持ち学習活動、進路活動に取り組むよう支援する。</p>

※評価基準： A：十分達成できた B：達成できた C：やや不十分だった D：不十分だった

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
教科指導	①基礎学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 自律×個別最適な学びを支援するAI学習教材の活用等、ICTを活用した教育の推進を目指すと共に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる。 生徒支援を通して授業に臨む基本的な態度を育成する。 	B	B AI学習教材の効果的な活用について更に検討する。		
	②生徒による授業評価「授業を通して、知識や技能(技術)が身に付いた」「授業を通して、考えたり表現したりする力が身に付いた」での肯定的意見8割以上	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善推進チームを中心とした、研究授業、授業相互参観、校内研修等の実施 生徒による授業評価アンケートを活用した定期的な授業改善状況の分析 	B			
教	国語	①生徒による授業評価生徒による授業評価「授業を通して、知識や技能(技術)が身に付いた」「授業を通して、考えたり表現したりする力が身に付いた」での肯定的意見8割以上	<ul style="list-style-type: none"> 国語の一般常識の学習や語彙学習を行い、基礎学力の向上を目指す。 達成目標や評価規準を明確にし、言語活動を充実させ、学習意欲を引き出す。 	A	B 次年度も生徒の実態にあった授業展開を意識する。 より明確な達成目標を提示できるよう評価基準を工夫する。	
		②大学進学・就職活動に対応できる学力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 3年次に小論文を指導できる体制を作る。 	B		ICT機器を活用しフィードバックできるよう検討する。
			<ul style="list-style-type: none"> 授業や個別指導を通して、様々な希望に対応する。 	B		進路希望に応じて課外を利用し入試問題や模試の過去問の実施を検討する。
	地歴公民	①生徒による授業評価生徒による授業評価「授業を通して、知識や技能(技術)が身に付いた」「授業を通して、考えたり表現したりする力が身に付いた」での肯定的意見8割以上	<ul style="list-style-type: none"> 授業に臨む基本的な態度を育成するとともに、基本的な事項や時事問題についてどの生徒も理解できるよう、テーマや新聞などの教材を工夫する。 	A	B 次年度も継続して、教材・指導法を工夫する。 進路希望に応じた授業展開をより一層意識する。	
			<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト・一般入試対応や就職試験対策などの演習を行うとともに授業中も机間指導を積極的に取り入れ、生徒の実態に応じた指導を展開する。 	B		
		②地域に対する理解を深め、郷土愛の精神を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 授業に地域の歴史・地勢・風土などの話題を取り入れることで、地域に対する理解を深め、地域を大切に作る姿勢を育てる。 	B		ICT機器を利用した授業内容を検討する。
数	①基礎学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入やまとめに既習事項の確認を行い、生徒の理解度に合わせた指導をする。 	A	B 引き続き生徒の理解度に合わせた指導をする。 次年度は工夫して学習習慣の定着を図らせたい。 引き続き取り組む。 次年度も工夫して指導を行う。 次年度も継続して取り組む。		
		<ul style="list-style-type: none"> 日頃から家庭学習用のプリント課題を作成し、学習習慣の定着を図る。 	B			
		<ul style="list-style-type: none"> マナトレを活用し、既習事項の学び直しをすることで、知識の漏れをなくす。 	A			
	②生徒に数学を学ぶ意義を実感させ学ぶ意欲の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 授業で学習した知識を活用する活動を定期的に取り入れ、数学の有用性を実感できるようにする。 少人数指導により、個々に応じた指導を行う。 	B			
		③入試に対応できる学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 放課後や休み時間を利用した課外を通して、より難易度の高い問題に触れる機会をつくる。 個々の能力に応じてプリント等を用意し、レベルの高い内容を学習させる。 		B	
科	①生徒による授業評価生徒による授業評価「授業を通して、知識や技能(技術)が身に付いた」「授業を通して、考えたり表現したりする力が身に付いた」での肯定的意見8割以上	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な知識や概念を授業などで繰り返し取り上げ、小テストや演習問題で定着を図る。 	A	B 引き続き一人ひとりの生徒を考慮して指導していく。		
		<ul style="list-style-type: none"> 個々に応じた課題を生徒に課し、学習習慣を身に着けさせる。 	B			
	②大学進学に対応した指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用などにより授業展開や実験などを工夫し、興味・関心を高め、思考を深める。 	B		引き続き取り組む。	
	①社会生活で必要とされる知識の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の社会生活を送るうえで必要とされる基礎的な知識を、繰り返し取り上げ定着を図る。 	A	次年度も継続して取り組む。		

保健 体育	②学習意欲が高まるような指導の工夫を図る。	・視聴覚素材の効果的な活用や、生徒にとって身近な話題や問題を積極的に取り上げることにより、生徒の興味・関心を促す。	A	A	次年度も継続して取り組む。
	③技能・体力の向上を図り、生涯スポーツの獲得を目指す。	・技能を身に付け体力の向上を図るための資質・能力の育成を図り、生涯スポーツを獲得するために積極的に授業に関わるよう指導する。	B		より専門的なスキルの獲得に向けて指導していく
芸術	①生徒による授業評価「授業を通して、知識や技能(技術)が身に付いた」「授業を通して、考えたり表現したりする力が身に付いた」での肯定的意見8割以上	・芸術的活動を通して、感性と教養を向上させ、実生活の中で表現されたものへの気付きや感性を高める。 ・可能な限り個々の技術的レベルに沿って、表現体験の実現を目指す。	A	B	引き続き、生徒一人ひとりの実態に応じた指導を工夫し、毎時間ごとに達成感を持たせる授業を展開していく。
	②個性豊かな表現力を伸ばす。	・形や指示に沿うのではなく、意思と思考から発せられた表現に、前向きに取り組む。	B		表現方法について主体性を持たせる指導が必要である。
外国語	①生徒による授業評価「授業を通して、知識や技能(技術)が身に付いた」「授業を通して、考えたり表現したりする力が身に付いた」での肯定的意見8割以上	・個々の理解度を十分に計り、必要に応じて個別に対応しながら、基礎基本の定着を図る。	A	B	多様な生徒がいる中で、表現活動を増やしていくことが課題である。
		・ICTを積極的に活用することで生徒の学習意欲が高まるように工夫をし、分かる授業に繋げていく。	B		ICTを日常的に使用し、端末の持参率を高める。
	②英検の受験を奨励する。	・授業を通して生徒の受験を促し、希望者に対して課外指導を実施する、また二次試験に対応できるよう指導する。	A		英作文等の個別の支援が必要である。
		・英検で能力が試される四技能を伸ばすために、授業における生徒主体の活動内容を検討する。	B		課外や習熟度の授業を利用して、入試問題や模試の過去問を実施したい。
③入試に対応した実力を身につけさせる。	・上級学校受験希望生徒のニーズに応じた、より高度な授業を展開する。	B			
	・基礎基本の定着を図り、更なる実力向上のため、放課後などに課外授業を行い受験対策を図る。	A			
家庭	①生徒による授業評価「授業を通して、知識や技能(技術)が身に付いた」「授業を通して、考えたり表現したりする力が身に付いた」での肯定的意見8割以上。	・日常に沿った課題を提示し、生徒の実態に合わせた授業を展開できるようにする。	A	A	継続していく。
		・実習においてTTの指導を行い、きめ細やかに指導を行うことで技術の定着・苦手意識の改善を図る。	A		TTの指導により、生徒の特長に合わせた指導を行うことができ、実技に対する苦手意識の改善とともに技術向上を図ることができた。
	②家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。	・ホームプロジェクトにより家庭生活の改善を図る。 ・学校クラブ活動を通して自分たちに可能な地域貢献を行う。	B B		それぞれに合った題材を探すことが課題。 地域との関りが少なかった。
情報	①情報活用の実践力を養う。	・情報モラルとメディアリテラシーについて、プリント学習や実例の提示を通して理解させる。	B	A	SNS関係のトラブルがあるため引き続き指導が必要である。
		・自ら課題を見つけ、解決へ導くことができるような課題を設定し、主体的に学ぶ態度を養う。	A		単元によってグループでの探究活動を取り入れ指導した。
	②情報の科学的な理解を深める。	・情報手段の特性や情報の適切な扱い方を実習を通して理解をさせ、情報を活用できるようにする。 ・情報セキュリティについて、映像教材や体験実習を通して理解させ、危機意識を高める。	A B		コンピュータを使用した課題を多く設定し、情報機器を扱いながら学ぶことができるようにした。 生徒の身近な題材を探し、自分事として考える活動を継続する。
①農業教育を通して、生徒の興味や関心を引きつけ、学力の定着や主体的に学ぶ意識を育成する。	・より良い実験や実習を提供できるよう授業改善を行う。	A	B	本物を見せる、触れる等の授業ができた。ICT活用の推進が課題。	
	・各科目においてプロジェクト学習を見据えた授業展開を可能な限り実施する。	B		プロジェクト学習にICTを取り入れながらの授業展開を考案。	

科	農 業	②農業教育を通して、個々の生徒に応じた活躍の場を設ける。	・農業クラブ行事への参加を促し、県大会においては、分野や区分に関わらず優秀賞2人以上を目指す。	A	B	農ク活動の意義を理解させ、活動に取り組ませる。
			・地域貢献に係る行事を実施し参加する。(花壇整備、美化活動、販売活動等)	A		学校行事とのバランスを意識した計画が必要。
		③学校と地域の連携を深め、地域貢献、地域共生を実践する。	・学校HPなどで地域にグリーンテクノの活動情報等を発信する。更新を月1回以上行う。	C		記録係を明確化、情報提供を目指す。
			・茨城県、稲敷市、民間企業や農家、他の学校等連携活動を実施する。	A		地域資源の活用を継続する。
	工 業	①規律ある態度の育成をする。	・実習服の正しい着用の徹底、実習を受ける姿勢、実習に取り組む基本的な態度を育成する。	A	A	次年度も継続する。
		②学習内容の厳選を行う。	・実習内容・方法の再構築を行う。	B		実習内容の厳選を行う。
		③学校と地域の連携を深め、地域貢献、地域共生を実践する。	・出前授業や作品展示を通して地元中学校との交流を図り、ものづくりの楽しさやメカニカルテクノ系列の取り組みを伝えながら、地元に戻元できる人材を育てる。	A		作品展示や地元貢献につながるような実習を行う。
	福 祉	①生徒による授業評価「授業を通して、知識や技能(技術)が身に付いた」「授業を通して、考えたり表現したりする力が身に付いた」での肯定的意見8割以上	・社会福祉や介護の基礎的・基本的な知識や技術を総合的に学ぶ。	A	B	引き続き継続する。
			・校外での介護実習を通して、より実践的な態度を育てる。	B		引き続き継続する。
			・生徒の能力と実態に合わせて、ICTを活用し、授業を工夫・改善する。	B		ICTを活用した授業展開を検討。
			・主体的に学習する態度を身に付け、意欲的に課題解決能力を形成する。	A		実習発表会等、生徒が主体的に学習する場を作る。
		②介護従事者としての専門的な知識・技術を習得し、育成する。	・対人援助を行う際のマナーについて生徒自らが認識し、あるべき姿を考えられるようにする。	B		引き続き継続する。
・福祉や介護について、看護の分野をなどから専門的な知識・技術の習得をする。			A	引き続き継続する。		
③地域行事等に積極的に参加し、地域に戻元できる人材を育てる。	・学校間交流等の行事への参加や実習・就職を通して、地域との連携を図る。	B	引き続き継続する。			
	・「生徒生き生き育成プラン」の事業を通して、地域との連携を図る。	C	介護分野への就職率を上げる。地域社会との交流を検討する。			
教 務	①学習環境の整備及び授業改善の推進を図る。	・授業の振替を確実にを行うことにより授業時間を確保する。	A	B	次年度も継続して行う。	
		・各教科と連携を図りICTを積極的に活用することで、生徒が知識・技能や考えたり表現したりする力を身に付けられるよう授業を改善する。	B		ICTの活用をより生徒の育成すべき資質・能力に結び付ける。	
	②教育課程や校内諸規程の見直しを検討する。	・教育課程検討委員会等により、教育課程の問題点を共有し、解決策を見出す。	B		今後の方向性を検討していく。	
		・校内諸規程の見直しを継続して進める。	B		次年度も継続して行う。	
③地域との連携を推進する。	・チャレンジ・プロジェクト事業をもとに、地域との連携を充実させる。	A	連携をより充実したものにする。			
	・学校説明会(模擬授業、部活動体験等)を通し、特色ある本校の教育活動を積極的に広報する。	A	広報をより充実したものにする。			
生徒指導	①生徒の規範意識を高めると共に、基本的生活習慣の向上に努める。	・生徒との信頼関係の構築を重視し、面談や声かけなど、心に響く指導を展開する。	A	A	継続して支援していく。	
		・規範意識や基本的生活習慣の向上と定着を図るため、職員全員で積極的な声かけを行う。	B		より協力して行える指導体制を構築する。	
		・ルールやマナーを尊重する態度を育成するため、職員間、職員と保護者の連携体制を強化する。	A		継続して連携を深めていく。	
	②自他の生命を尊重する精神を養うと共に、豊かな心を育成する。	・自他の生命、尊厳を尊重する精神を養うため、HR、年次集会や各種講話の充実を図る。	A		継続して推進する。	
・交通マナーや交通安全の意識の向上を促すため、定期的な登下校指導、自転車・バイク点検、安全運転講習会を実施する。		B	実施形態を見直していく。			
進路指導	①生徒個々が適した進路選択をし、実現を目指す。	・2年次と連携してインターンシップを実施し、将来就きたい職業について考えさせる。	A	次年度も継続する。		
		・卒業生講話や進路報告会を実施し、将来の進路選択を決定させる機会とする。	A	次年度も継続する。		
		・地域の大学と連携し、サマースクールを実施する。	B	参加者が増える工夫を検討する。		

	②進路情報を進路指導部や各年次と共有し、生徒に進路選択の情報提供に努める。	・Google クラクルームを利用して、最新の進路情報の提供と共有を行う。	A	A	次年度も継続する。
		・進路閲覧室の整備や廊下のポスター類の掲示などにより、生徒に最新の情報を提供できる環境を整備する。	A		次年度も継続する。
	③進路希望実現のための指導方法を確立する。	・年次ごとの取り組みを共有し、次年度へも継承できる体制を構築する。	B		各年次との情報共有および意見交換を行う方向を検討する。
特別活動	①キャリアパスポートについて本校の「江総ポートフォリオ」を活用し、行事を通じてキャリア形成を図る。	・生徒会定例会を毎週開き、本部役員の意識向上と資質の向上を図る。	A	A	次年度も継続する。
		・江陵祭実行委員・クラスマッチ実行委員・応援委員等について、本部役員以外の多数の生徒が運営に参加し、主体的な活動ができるように支援する。活動に関しては、「江総ポートフォリオ」に記録し、振り返りができるようにする。	A		生徒主体の行事实施に向けて引き続き計画する。
	②部（クラブ）活動・委員会活動の活性化を図る。	・部活動説明会、体験会等を実施し、生徒が積極的に部活動などに加入・参加できるようにする。	A	A	次年度も継続する。
		・年3回の各種委員会を設定し、目標設定・計画立案・反省・評価ができるようにする。	A		次年度も継続する。
③地域行事へ積極的に参加する。	・地元自治体と連携し、自治体主催の行事や「生徒活き活き育成プラン」等の事業を通して、地域の行事へ積極的に参加できるようにする。	B		次年度実施する内容を考える。	
保健厚生	①学校環境の整備、美化に努める。	・ゴミの分別回収、清掃分担区域の清掃の徹底を図る。	A	A	清掃は各区域概ねできていた。
		・環境美化委員会の活性化を図る。	A		重点清掃区域を設ける必要がある。
	②健康について意識の高揚を図る。	・身体測定、健康診断を一斉実施し、「保健だより」による情報提供をする。	A		継続して実施する。
		・保健委員会の活性化を図る。	B		教職員が協力して行う必要がある。
③防災、安全衛生点検に努める。	・事故の未然防止を図るための避難訓練および校舎内外の点検、水質検査を実施する。	A		衛生委員会と連携して行う。	
図書	①図書委員会の活性化を図る。	・図書委員による貸出当番、装飾を実施し、生徒中心の図書室づくりを目指す。	A	A	委員会の活動内容を充実させる。
		・校外研修に参加し、図書委員の活動の幅を広げる。	A		研修会に向けて指導する。
	②図書の貸出冊数を増加させる。	・図書だよりや図書購入リクエストのお知らせ、新着本のお知らせをclassroomで生徒、職員に通知し、生徒や職員が気軽に利用できるようにする。 ・図書委員や図書室利用者から図書の購入希望を募り、生徒の実態に合った図書を購入する。	A		貸出数は増加したが、生徒からの要望が少ないため、図書委員に要望を出すように依頼する。
	③蔵書の管理を図る。	・書籍資料の受入を速やかに行う。	A		当番制等により全員で行う。
	・図書の除籍の頻度を高め、書架が利用しやすい状態になるようにする。	B		大量に除籍をしたが、教科系列の協力で図書の更新をする必要がある。	
渉外	①PTA活動の充実を図る。	・PTA会員による活動を周知し、会員の行事への参加率を高める。	A	A	早い段階での行事・取り組みに向けたチーム作りを心掛けながら連絡、声掛けが必要。
		・家庭と学校との密接な連携を目指し、会報誌の発行や学校行事等への積極的な参加を呼びかける。	A		広報活動活発であり、連絡も綿密なため、次年度も継続する。
	②教育環境の整備・充実を図る。	・登校・校外指導を通じ、生徒の規範意識、基本的生活習慣の定着を図る。	A		登校指導、生徒から挨拶も返って来るようになり、次年度も継続する。江戸崎祇園祭への巡回指導は今後も生徒指導部と打ち合わせが必要。
	・生徒・保護者からの声を聞き、よりよい校内環境を整えられるよう努める。	A		次年度も継続する。	

	③会員相互の親睦を図る。	・研修を計画することで、アイデアを募り、会員相互の親睦を図る。	A		管理職との打ち合わせが必要。一人の人に負担が集まらないように協力が必要。
		・同窓会・後援会との連絡を密にし、学校行事等への一層の理解と協力を得る。	A		早めの打ち合わせと段取りを明確にする。
情報	①情報セキュリティを徹底する。	・教職員のセキュリティポリシー意識を高め、遵守させる。	B	B	意識のアップデートが必要。
		・情報資産の洗い出し・整理・廃棄・メンテナンスを実施する。	B		未達成のフォルダがある。
	②ICT環境整備・支援を行う。	・ICT機器・ネット環境の動作点検、速度確認を行う。	A		Wi-fi等の不具合の解決を図る。
		・初歩的な段階からのICT研修を実施し、作業時間の削減と働き方改革につなげる。	B		校務フロー自体の見直しが必要。
	③情報モラルを徹底する。	・教職員の情報モラルを高める。	B		公私の区別を明確にする。
		・生徒の情報モラルを高める。	B		大多数の生徒は高まっている。
1年次	①基本的な生活習慣を確立する。	・挨拶の励行や標準服の正しい着用、時間の厳守等、基本的な生活習慣の確立を図る。	B	A	引き続き指導していく。
		・学校が自己実現の場として最大限の機能を果たせるよう、常に環境改善に努める。	B		引き続き指導していく。
	②社会性の向上を図る。	・善悪を判断する力、正義感、公共のルールやマナーを守る姿勢を身に付けさせる。	A		公共のルール、マナーを守るように引き続き指導していく。
		・周囲に感謝する心や互いに助け合う精神、思いやり、多様な意見を尊重する姿勢を醸成する。	A		周囲の人のおかげで自分があることを引き続き指導していく。
	③進路目標を設定し、基礎学力の定着を図る。	・日々の授業を大切に、自ら考え、自ら学ぶ姿勢や主体性のある意識の向上を図る。	B		主体的に授業に取り組むことを引き続き指導していく。
		・検定等の資格取得を推奨し、進路意識を持たせながら学習意欲の向上に努める。	A		引き続き指導していく。
2年次	①基本的な生活習慣を確立する。	・挨拶の励行や標準服の正しい着用、時間の厳守等、基本的な生活習慣の確立を図る。	B	A	継続して指導する。
		・学校が自己実現の場として最大限の機能を果たせるように常に環境改善に努める。	A		継続して指導する。
		・家庭と学校が連絡を密接に行い、連携して生徒の生活習慣の獲得に努める。	A		家庭と担任が連携を図り、生徒指導に当たることができている。引き続き継続していく。
	②社会性の向上を図る。	・善悪を判断する力、正義感、公共のルールやマナーを守る姿勢を身に付けさせる。	B		公共の場を理解し相手に対して配慮することができるように指導する。
		・周囲に感謝する心や互いに助け合う精神、思いやり、多様な意見を尊重する姿勢を醸成する。	A		思いやりの心を育て、多様性を認める力を育てる。
		・勤労体験、修学旅行等の校外諸活動を通して、社会性の向上と心の育成を図る。	A		修学旅行を通し、異文化交流を行うことができた。
	③進路実現に向けた方向性の確立及び学力の向上を図る。	・日々の授業を大切に、自ら考え、自ら学び、主体的な姿勢や意識の向上を図る。	B		授業を大切に、自ら主体的に学習できるような環境づくりを授業担当者で連携しながら実施していく。
		・検定等の資格取得を推奨し、進路意識を持たせながら学習意欲の向上に努める。	B		検定試験の積極的な受験に向けた継続的な指導と面談やガイダンス等を通し進路意識を高める。

3年次	①生徒の希望や適正に応じた進路の実現を図る。	・進路指導部との連携・協働で生徒の進路に対する意識を高め、進路実現を目指す。	A	A 生徒の自主性を伸ばす。 先生方からの意見を取り入れ計画していく。 見逃さず、声掛けしていく。 引き続き継続していく。 引き続き細かいことも家庭と連携し信頼関係を築く。 公共の場を理解し、他者を理解する態度を育てる。 思いやりの心を育て多様性を認める力を伸ばしていきたい。 地域連携の場をつくり、活動の場を増やしたい。
		・総合的な探究や個別対応を通して必要な情報を提供し、適切な進路指導を行う。	A	
	②基本的な生活習慣を確立する。	・挨拶の励行や標準服の正しい着用、時間の厳守等、基本的な生活習慣の確立を図る。	B	
		・学校が自己実現の場として最大限の機能を果たせるように常に環境改善に努める。	B	
		・家庭と学校が連絡を密接に行い、連携して生徒の生活習慣の獲得に努める。	A	
	③社会性の向上を図る。	・善悪を判断する力、正義感、思いやり、公共のルールやマナーを守る姿勢を身に付けさせる。	B	
		・周囲に感謝する心や互いに助け合う精神、多様な意見を尊重する姿勢を醸成する。	B	
		・校外諸活動を通して、社会性の向上と心の育成を図る。	B	

※評価基準： A：十分達成できた B：達成できた C：やや不十分だった D：不十分だった